未来をつむぐライフマガジン

ボラみみ

FREE PAPER
無料
ご自由にお持ち下さい

2024年 No.255
01・02月号

編集・発行　特定非営利活動法人 ボラみみより情報局　■発行日：2024年1月1日　■発行部数：9000部
©ボラみみより情報局2024　禁・無断転載

今号のテーマは、**シン・ボランティア。**

ボランティアって、いったい何でしょうね？
ボランティア活動に参加したことがない皆さんは、ボランティアと聞いて、どんなことを想像しますか？
今、ボランティアをしている皆さん、あなたにとって、ボランティアって何ですか？
巻頭の対談中に「ボランティアってあなたのものだから」という言葉が登場します。
そう、ボランティアって、その人が感じるものであり、つくっていくものなのではないでしょうか。
そして、きっと「シン」も人によって新だったり、深だったり、心だったり……捉え方は様々。
2024年、あなたにとっての「シン・ボランティア」を見つけてみませんか。

INDEX

2024 1·2

- シン・しん・shinボランティア～変わる活動のかたち～ P.02
  愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター　秋田 有加里さん
  ×　ボラみみより情報局　織田 元樹
- 変わりつつある活動 P.05
- つむぐひと 05 P.06
- 決定!!第10回 ボラみみアワード P.07
- 第79回 企業の社会貢献活動の現場から P.10
- あなたの街のボラスポ紹介! P.10
- CivicTech入門 09 P.11
- ボランティア情報 P.12
- ボラみみINFORMATION P.15

秋田 有加里さん（右）と
織田 元樹

愛知淑徳大学
星ヶ丘キャンパス コミュニティ・
コラボレーションセン

シン・しん・shin ボランティア

～変わる活動のかたち～

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター
秋田 有加里さん

対談

ボラみみより情報局
織田 元樹

普段から顔を合わせるたびにボランティア談義が止まらないふたりが、改めて「ボランティア」について語り合いました。ボラみみ立ち上げから様々なボランティアを見てきた織田と、コミュニティ・コラボレーションセンター※（以下CCC）の準備室ができた2005年からずっと大学生のそばにいる秋田さんならではのお話を聞くことができました。（この記事は2023年10月19日の対談を要約したものです）

※コミュニティ・コラボレーションセンターとは…愛知淑徳大学内にある、学生たちのボランティア活動や地域貢献活動をサポートする教育センターです。秋田さんは、そこで学生の自主活動をサポートしています。

社会とボランティア事情

織田：　CCCができた2006年当時と今では、学生さんの雰囲気が変わったと思います。社会も大きく変化しましたよね。学生さんと日々接する中で、どう感じていますか。

秋田：　この15年くらい、だんだん社会に余裕がなくなり、それが学生にも伝わって、社会が学生たちを苦しませているなと思います。CCCができた当初の学生たちは失敗を恐れないパワーがあって、自分たちの未来は明るいと思える学生がたくさんいたように思います。だから、今ボランティアに時間を使っても大丈夫、明日・あさってで挽回できる、自分の好きなことも十分できると思うことができた。それが今の時代は、1年生でさえも、就職にはボランティアをやった方がいいですかって聞かなきゃいけない社会になっていて……。

　CCC開設時から見守ってくださっているブイ・チ・トルン先生は「若者は変わらないはずだよ。挑戦したい、未来を見たいっていう世代なのに、もし彼らが変わったとするなら、それは社会の大人がそうさせているということ。だからあなたは『若者はいつも変わらない』と思って接してほしい」と言います。それを忘れないようにしています。

織田：　なかなか厳しい社会ですが、最近のボランティアに何か新しい動きを感じますか？

秋田：　活動で得られる喜びややりがい、人とのつながりとか、ボランティアの大切な部分は変わらないけ

ど、関わり方が本当に多様になりましたよね。コロナ禍を経てオンラインでの活動が普通になりましたし、ファンドレイジングのような寄付の形も、今は距離が遠くても画面越しに様子がわかったり、物品が自分に返ってきたりすることで身近に感じられるようになりました。

コロナ禍で身動きがとれないときに、織田さんに相談したら「いくらコロナで社会が止まっても苦しい人は苦しい。助けを求めている人はいるんです」って言われて、それを学生に伝えると「そうですよ、秋田さん。だからやれることをちゃんとやりましょう!」って言ってくれました。

織田：　頼もしいですね。

秋田：　そのときに学生が始めた活動は今も続いているんですよ。コロナ禍当時、名古屋市天白区にある徳林寺にベトナム人の技能実習生や帰国困難になった方々が50人ほど暮らしていました。生活にメリハリをつけて、有意義に過ごせるようにとオンラインの日本語教室を開いたんです。今は、帰国した方ともオンラインでつないで続けているんですが、その方の子どもも参加するようになって、10歳の子が日本語をだいぶしゃべれるようになったんです。私だったらできないって思っちゃうけど、学生たちは「やれるところまではやります」と言って、仲間を募って続けています。すごいですよね!

逆に難しいなと思うのは、高齢の方が集まるボランティア団体さんから学生さんに来てもらいたいと言われて参加しても、なかなか続かないことですね。だから7、8年前から高齢の皆さんには「がんばってボランティアを続けましょう」と、その代わり「学生も行けるときは行きますし、学生たちは学生たちで経験をもとに違う活動・団体をつくりだすと思います。それはそれで次の世代を守るためにはアリですよね」と言っています。

織田：　その考えは正しいと思うんですよね。僕もある会議で、団体の高齢化について意見を聞かれたときに、「なくなる団体はなくなってもいいんじゃないですか」と話しました。団体の寿命みたいなものがあって、団体も年を取って消えていくのは普通のことなんじゃないかと。その寿命を延ばすことだけではなく、新しい芽が育つ土壌をつくることが大切だという話をしたんですよね。

ボランティアのUberEATS(ウーバーイーツ)化!?

織田：　ずっとボランティアを見てきて思うのは、働き方がボランティアのあり方にも影響しているということ。終身雇用が当たり前の時代もあったけど、今はそうじゃない。転職は一般的になり、むしろどう転職していくかという時代になり始めていて、どれだけ自分の経験を積めるか、自分にフィードバックがあるかが大事になってきている。オンライン化や雇用形態の多様化が進む中で、ボランティアも自分の空いた時間にいつでもやれる、どこかに所属しなくても活動できる形に変わってきていると思います。それができるインターネット環境もでき始めていますしね。

だから、ボランティアは「UberEATS型」になっていくだろうなと思います。すでに実験的にそういう仕組みはありますが、まだ成立はしていないですね。例えば、荷物が重くて運べない人がいたとして、そもそもその人がインターネットに自分でその情報を流せるかどうか、仮

に流したとして、そういう人を狙う悪意ある人が出てくるかもしれない。その安全性をどう担保するかが、今後の大きな課題ですね。

秋田：　最近の傾向としては、一歩を踏み出すのが昔より遅くなっているような気がします。学生さんを見ていると、情報が多すぎて、本当に自分がやりたいボランティアを選ぶことができていないんじゃないかと心配になるときもあります。「CCCでやりたい活動が見つからないなら、好きなように自分で探しに行っていいよ、だってボランティアってあなたのものだからね」と伝えますが、それが難しい学生も多いかもしれないですね。

織田：　情報が多すぎるんですか?最近思うのは、AIを使う時代になりつつあるなと。人が何となく曖昧な言葉で言ったことを元に、AIがある程度情報を絞り込んでくれる。そんなことが技術的にできるようになってきました。

秋田：　そうしたら見つけやすくなりますね。とはいえ、人と話しながら選びたいとか、活動に行きたいという人は一定数いるので、CCCみたいなセンターも気軽に始められるシステムも両方とも残るんでしょうね。

織田：　僕がボラみみを始めたときは、ボランティアのハードルが低かったなということも感じますね。社会活動とか市民活動って言うと敬遠されるけど、「ボランティア」はまだずっと柔らかかった気がするんですよ。

秋田：　この間、大学のボランティアセンターのセミナーがあったんですけど、どこの大学のスタッフも、最近は「ボランティア」と言うよりは「SDGs」とかの方が学生さんに受け入れられやすいと。

織田：　そういう意味では、ボランティアという言葉を使わずにやっているのが、広島県の鞆の浦のさくらホームの取り組みかな。小学生が高齢者の家を見守り訪問していたり、地域の人がボランティア活動をしてるんですが、ボランティアって呼んでいない。面白いのは「見守りマップ」を見守られている人たちと一緒に作ったら、「私達ってそんなに見守られてたの」っていう話になって、見守りしやすいように朝みんなでラジオ体操をするようになったんですよ。そこへ民生委員が行けば、誰が出てきてないかすぐにわかり、見守りやすくなったっていう。すごく面白いですよね。

秋田：　地域力がありますね。おたがいさまの気持ちですね。昔はそうだったんですよね、きっと。

希望の芽

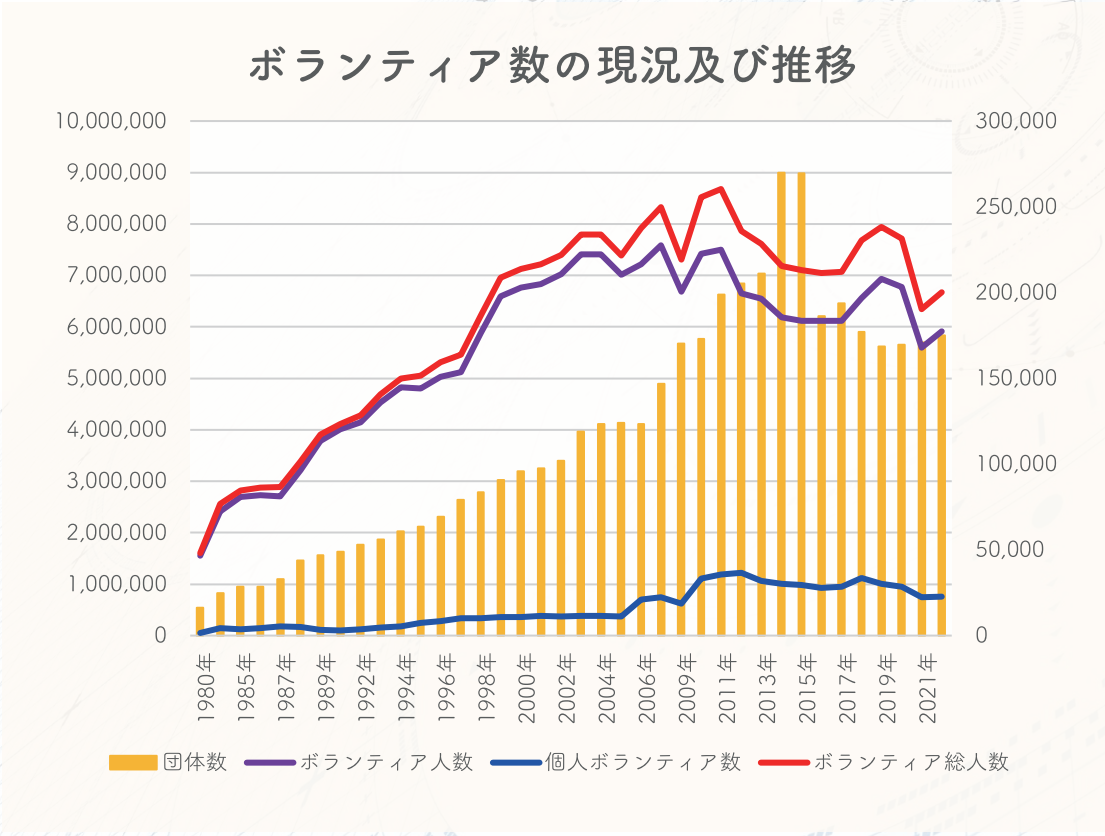
織田：　最近は町内会でも自治会でもない小さなコミュニティができ始めていて、その多様なコミュニティがどんどんできてくると、地域が根本的に変わり始めると思っています。そのコミュニティ同士が繋がり、情報交換をすることで、地域を「面」で支える仕組みができると思うので。本当に多様な「居場所」の形があって、そこの人たちがまた人を育てようとしている。しかも、みんな楽しくてしょうがない!という感じで、「ボランティア、ボランティア」していないんですよね。こういう芽を応援する仕組みをどうつくれるかなと思ってるんですよね。やっぱり希望がないと人は動けないですからね!

秋田：　新しい芽は本当に生まれてきているなって思います。CCCには主に18歳から22歳の年齢の学生たちが来るので、いつも「希望」を感じます。彼らには未来しかないから。ここにたくさんの学生たちが来てくれるということは、地域に関わりたい、自分も何かしたいと思う若者がいるということ。逆にCCCに来なくてもみんな自分で活動を見つけられるようになったのなら、それはそれでハッピーですが、誰かと一緒に探したいとか、誰かと話して確認し合いながら活動したい学生はいます。だから、何か役に立ちたい、自分の得意を誰かのために生かしたいと思う学生たちがここに来てくれる間は大丈夫だなって思います!

変わりつつある活動

阪神淡路大震災が起きた1995年は「ボランティア元年」と呼ばれるようになり、それ以来、災害があるたびにボランティア活動はマスコミに注目されてきました。しかし、下記の統計にあるように、1995年に劇的にボランティアが増えたわけではありません。それどころか、2011年の東日本大震災以降、ボランティア数は減少してきました。その原因は、少子高齢化・人口減少により社会で人手不足が深刻化するように、ボランティアの界隈でも担い手が減少してきたことだと言えます。

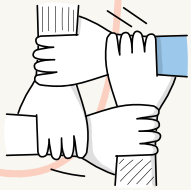
一方で、2012年に始まった子ども食堂は、2022年度の調査によると、2021年度から1,349か所増え、全国で7,363か所に広がっています。子ども食堂は一般に子どもの貧困支援とみられていますが、地域の多世代が交流する居場所としての役割もあり、地域コミュニティの形成に役立っています。2023年の『ボラみみ』9・10月号でも取り上げた居場所づくりの活動は、子ども食堂以外にも、駄菓子屋さん「すみれっ子」やマチの技術家庭科室「シバテーブル」、「暮らせる図書館」など、多様なコンセプトの活動が出てきました。これからも、これまでとは違った活動が増えていくことでしょう。

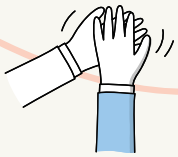


全国の社会福祉協議が把握するボランティア数の現況及び推移（2022年7月現在）

つむぐひと

05





明石 雅世 | 地域ボランティア♪ハーモニー♪

人々の暮らしに寄り添い、地域や社会の課題解決のために、日々活動している人たちがいます。
困っている人々の声、ご自身の体験や感じたことを丁寧につむいで、よりよい明日を実現しようとしている人たち。
そんな、未来を「つむぐひと」に、ご自身の活動や思いについてご紹介いただきます。

日常の暮らしこそ大切なタカラモノ

2008年10月に、「この指とまれ」の呼び掛けで集まったメンバーでNPO法人の傘下に入り、名古屋市の補助金を受けて、小さなお子さんと親の居場所「つどいの広場♪ハーモニー♪」を開設しました。その後、メンバーの意向もあり、2011年4月から地域住民として活動しようと、メンバーの家をお借りして、「親子の居場所♪ハーモニー♪」として再出発しました。

メンバーの意向とは、子育てを暮らしの営みとして捉え、親子の日常のルーチンワークとして「♪ハーモニー♪」という場があること。メンバーにとっても暮らしの場であること。そして、世代の違う者同士が出会い、知り合いになっていく“普段着”を目指すということでした。なので、一緒にお昼ご飯は食べるけどノンプログラム。ただ、おしゃべりして、お茶を飲んで、お子さんと遊ぶ。お互いにつながる・つなげる場を目指しました。メンバーが地域住民なので、来てくださった親子さんとは、スーパーで、郵便局で、公園で、町医者で、そして道すがら出会い、挨拶を交わす間柄になります(※現在は、ランチタイムは行っていません)。

こうして13年経ち、当時のお子さんが中学生になりました。出会って間もなくして引っ越した親子さんも多数いますが、何人かはFacebookでつながりながら近況を伝え合っています。メンバーのお子さんの中には、夏休みや春休みにスタッフとして遊びに来てくれる子もいます。ノンプログラムが功を奏して、親御さんでグループを結成しイベントを企画しました。今では月1回のサロンを開設しています。人形劇団を旗揚げしたグループも誕生しました。音楽を生業にする方は、ボランティアで演奏を披露してくれます。これらを“恩送り”といい、次世代へサポートをしてくれたらいいなと思っています。

私自身が早くに夫を亡くし、知人や子どもの友人の親御さんに助けられながら子育てをしてきました。経済的な支援はもちろん必要ですが、人との出会いやつながりはもっと大切です。確かに面倒なこともありますが、それも含め、その体験こそが日常の暮らしを豊かにし、その後の自分を創っていきます。最近、活動の中で出会った女性が娘の同級生だったということがありました。そんな時、つながりがあったからこそのサプライズだと思えてなりません。

時を経ていくと、思わぬところで“再会”というプレゼントがあることを期待し、もう少しこの活動を続けていきます。

メッセージ

“芸は身を助ける”と思い、5年前にウクレレを習い始めました。
未熟な演奏ですが、音楽を通して、みんながご機嫌になれたらなと思っています。あと5年ほどかかりそうですが。

決定!! 第10回 ボラみみアワード

この地域で活躍する市民活動を応援するとともに、多くのみなさんに関心を持ってほしいという想いを込めて創設したボラみみアワード。2024年、第10回を迎えました。

10年前とは困りごとや社会の問題は変化しています。市民活動は今の社会を映していますが、例えば「身近に困っている人がいる」、そんな一人の気づきから、支援、共感の輪が広がり、やがて社会を変える大きな力になることに変わりはありません。

今年の受賞団体の成り立ちや独自の活動を知れば、あなたも小さな力を発揮したくなるかも?!

認定NPO法人 人と動物の共生センター

共に幸せに生きる社会づくりのために

少子化の続く日本では15歳未満の子どもの数に比べて、ペットの数の方が多くなっています。家族の一員として共に暮らし、密接な関係を築く一方で、飼育放棄や殺処分といった悲しい現実が起きています。当団体は、ペットの飼育放棄や犬・猫の殺処分といった社会的課題の解決をめざして活動しています。飼い主が学ぶしつけ教室、ペットの終生飼育を目的とした互助会の運営、過剰繁殖対策、ペット防災活動など、動物とのすこやかな生活をサポートする情報提供や支援に関する多様な事業を展開。活動を通して、人、動物、自然、すべての他者を思いやることができる社会づくりに貢献することをめざしています。

★DATA★
- 創立：2012年3月
- ボランティア数：10人
- E-mail：info@tomo-iki.jp
- URL：https://human-animal.jp/

★ 受賞コメント ★

このたびは、このようなありがたい賞をいただき光栄です。「ペットを家族の一員から社会の一員に」という想いをもって、日々活動しておられるボランティアの皆様との繋がりを大切に、いっそう活動に邁進してまいります。

NPO法人 志民連いちのみや

市民自主性と地域アイデンティティを育む

いつまでも知らんぷりを続ける「死民」でなく、文句ばかりを言うが何も動かない「私民」でなく、地域へ自己責任で能動的に働きかけていく「志民」へ。そんな想いをもって、愛知県一宮市に軸足を置き、市民自らが企画運営するイベント「ラブたな」「杜の宮市」「まちの宮市」など、たくさんのまち育て事業を行っています。「杜の宮市」では来場者が3万人を記録するなど、市民主催のイベントとしては他に例を見ない活動を続けてきました。また、市民活動の中間支援として、一宮市市民活動支援センターの運営にも力を入れ、2022年には、一宮市から都市再生推進法人に指定され多様な活動を展開しています。

★DATA★
●創立：1993年　●ボランティア数：100人　●E-mail：info@shimin.org
●URL：https://www.shimin.org/　●https://www.facebook.com/shiminren138/

★ 受賞コメント ★

トカイナカ一宮の自律的市民性を拡張すべく、イベントを開催し、コミュニティ施設を運営し、中間支援や中心地活性化活動をしてきましたが、そのどれでも「ボラみみ」に助けられてきました。このたびボラみみアワードを頂戴し、一同とても誇りに思っております。

BLUE BASE 青い活動家のための拠点

「次世代の担い手たち」の助け合いグループ

いま、地域の担い手の高齢化や人手不足が深刻化しています。一方で、若手が課題に目を向けにくく、「地域や社会をよりよくしたい」と、活動し始めても、活動しにくい環境があると感じています。当団体は、県内各地で活動する「次世代の担い手」の集団。各々が活動する際に、情報交換し、学び合い、励まし合い、時には支援し合うことができる拠点をオンライン上でつくっています。メンバーの活動目的は、子どもとママの居場所づくりをしたい、地域防災に取り組みたい…など、さまざま。月に1回程度、オンラインミーティングや交流会、勉強会などを開催しています。まちを動かそうと活動する「青い力」を応援することで、地域や社会をより良く、明るく元気にすることをめざしています。

★DATA★
●創立：2021年　●ボランティア数（メンバー数）：60人
●連絡先アドレス：サイト内問い合わせページ　●URL：https://bluebasetokai.com/

★ 受賞コメント ★

このたびは、ボラみみアワードに選出していただき、誠にありがとうございます。「歩いて行ける範囲」は、自分たちの手で変えていくことができます。その結果、社会全体も良くなると信じています。この賞を受賞できたのも、各地で活動している仲間と、それを応援してくださる方々のおかげです。今後もポジティブに活動を続けていきます。

NPO法人 ひだまりの丘

ひとりひとりの思い・育ちに寄り添って

「ひとりひとりの育ちを大切にしたい」「もっと赤ちゃんや子どもたちとふれあいたい」という学生たちの思いから、先天性・後天性障害を持った方へのエンパワメントを通した余暇活動支援とベビーシッターサービスを始めました。親たちの子育てへの願いに応えながら活動を広げ、現在は子育て支援に加え10代・20代の女の子の居場所「meguru house」や諸事情で家庭に居られない、または児童養護施設を退所した青少年の自立準備場所「自立援助ホーム いと」等も運営しています。児童養護施設で育ち、大学進学をした蛯沢理事長は進学の大切さや若くして自ら生計を立てる難しさを知っています。団体全体としてスタッフさんたちの感性を活かした活動を応援し見守っています。

★DATA★
●創立：2002年　●ボランティア数：55人
●E-mail：info@hidamari-oka.org　●URL：https://hidamari-oka.org/

★ 受賞コメント ★

このたびはボラみみアワードという素敵な賞をいただき、ありがとうございます。こうして団体や活動を評価されることは大変嬉しく思います。これからも目の前の一人ひとり、一つひとつを大切に活動を展開していきます。今後ともご協力、ご支援よろしくお願いいたします。

ニシヤマイバショラボ

街にリビングのような『居場所（イバショ）』を創る

名古屋市名東区の西山エリアを拠点に、地域住民のコミュニティ形成を図り、街に新たな『居場所（イバショ）』を創る活動を展開しています。特に、ニシヤマイバショラボが運営する「暮らせる図書館」は、とてもユニークで心地のよい空間です。カーペットが敷かれた部屋にはたくさんの本が並び、子育て中のママが集まったり、小学生が座ったり寝転んだりしてくつろいだり。キッチンやちょっとした事務仕事ができるカウンターも設置されていて、その名の通り地域の人たちにとってリビングのようなくつろげる居場所になっています。また同じ趣味をもつ地域の人たちの「部活動」の拠点にもなっていて、まさに地域コミュニティの新しいかたちを提供しています。

★DATA★
●創立：2021年5月　●ボランティア数：4人　●E-mail：nishiyama.ibasholabo@gmail.com
●URL：https://www.instagram.com/nishiyama.ibasholabo/
https://kuraserulibrary.com

★ 受賞コメント ★

このたびは、大変光栄な賞をいただきありがとうございました。暮らせる図書館という拠点ができて1年、団体としての活動の幅も広がってきました。街にさらなるコミュニティが生まれ、人々の暮らしがより面白くなるよう、引き続き楽しく活動していきたいと思います！

第79回

企業の社会貢献活動の現場から

地元企業の社会貢献活動について、各担当者に自社の活動を紹介していただいております。
79回目となる今回は、ナゴヤ防災サミット実行委員会です。

危機につよい社会をつくる…だからこそ防災をもっとカジュアルに！

ナゴヤ防災サミット実行委員会　代表　進藤 直樹

ナゴヤ防災サミットは、危機につよい社会をつくるべく有志で構成するプロジェクトです。「防災」というと地震などの自然災害が思い浮かびますが、傷病や交通事故、テロに至るまで、幅広い「脅威」を取り上げるのが私どもの特徴であり、それもメンバーの多くがリスクマネジメントや地域防災、救急医療、セキュリティ等に携わるプロだからこそ。

とはいえ防災に詳しい人たちが理想を押し付けるだけでは皆様のそなえのアクションは起きないものですし、特に若い世代に興味を持って頂くことは難しいもの。そのため私たちは「好き」や「楽しい」から始まるそなえのカタチを追求し、様々なアプローチでPRを行ってきました。

本年は、名古屋が拠点のビジュアル系バンド「麗麗-reirei-」と活動し、ライブハウスでの公演内で防災のPRや心肺蘇生の練習などを行う「防災ライブ」を複数回開催したほか、無料情報誌の発行などを展開。これまで防災が届きづらかった層への啓発を実現でき、参加者からその後、「倒れた人に実際に遭遇したとき、落ち着いて行動できた」との報告も頂きました。

命に関わる分野だけに「こうあるべき」が強く謳われるものですが、きっかけはどうであれ、ゼロから「+1」を踏み出した人をいかに増やすかが大切。そのためには人が「おもしろそうだな」「役立ちそうだな」「やればできそうだな」と思えるそなえのアプローチをいかに増やすかが必要ではないでしょうか。

ナゴヤ防災サミット実行委員会
E-mail：info@t-nsp.com　ウェブサイト：https://bousai758.com/

次回は、株式会社依佐美をご紹介します。

あなたの街のボラスポ紹介！

ボランティアやNPOの情報を得ることができる
あなたの街のボランティアスポットを紹介していきます。

とよかわボランティア・市民活動センタープリオ

**もっとずっと豊川。
来て見て発見！ やってみよう！**

とよかわボランティア・市民活動センタープリオは、登録団体の活動を支援するために会議室・印刷機等の貸出、活動紹介パネルの展示やイベントチラシなどの設置を行っています。また、活動のさらなる発展のために、各種講座を開催しています。個人でボランティアをやってみたい方にも情報を紹介していますので、興味のある方はお気軽にお越しください！

■**所在地**　豊川市諏訪3丁目300番地プリオ4階　■**開館時間**　10：00 ～ 21：00（休館日：プリオ休業日、1/1・2）
■**相談受付**　火～土曜日10：00 ～ 18：00（祝日、プリオ休業日、年末年始を除く）
■**連絡先**　TEL：0533-89-9070　FAX：0533-75-6665　E-mail：senta-prio@ccnet-ai.ne.jp　HP：http://senta-prio.jp/

シビックテック

CIVIC TECH入門 09

「シビックテック」ってご存知ですか？直訳すると「市民技術」とでも言いましょうか。市民や行政とIT技術者が協力しつつ、ITをうまく活かして社会課題に取り組む活動です。2013年にCode for Japanという団体ができた後、「Code for OO」という団体が日本中に80ほど生まれ、各地でシビックテック活動に勤しんでいます。この連載では、名古屋のシビックテック団体Code for Nagoyaの関係者が、いろいろなシビックテック事情をご紹介します。

今号では、AIと一緒にボランティアについて考えてみようということで、今話題の生成AI「ChatGPT」に、長年ボランティア活動を行ってきた架空の人物を生成させ、その人に「ChatGPT」上でボランティアに関するインタビューを行ってみました。

プロフィール（ChatGPTが生成した人格・似顔絵）

名前：小林 恵子（こばやし けいこ）さん
年齢：55歳
職業：パートタイムの事務員
背景：名古屋市近郊に住んでおり、地域の福祉活動に20年以上関わっている。
性格：社交的で思いやりがあり、コミュニティに対する強い愛情を持っている。
動機：自分の住む地域を良くしたいという強い願望と、人々を支援することに深い喜びを感じるため。
特技・趣味：手芸、地域のイベントの企画
主なボランティア活動：
地域の高齢者施設訪問、環境清掃、食品バンクのボランティア、地域の子どもたちのための放課後プログラムの支援。

ボランティアを始めたきっかけを教えて下さい。

私がボランティア活動を始めたのは、私の子どもたちが小学生だった頃、学校で行われた地域のイベントが最初でした。そのイベントで地域の方々と触れ合う機会があり、地域の人々や高齢者の方々の話を聞く中で、もっと地域のために何かできることがあるはずだと感じました。特に印象的だったのは、ある高齢者の方が、「若い人たちと話す機会が少なくなった」とおっしゃったことです。その言葉が私にとって大きなきっかけとなり、地域での高齢者支援や交流活動に参加するようになりました。

日ごろ、ボランティアをしていて感じることはありますか？

最近、特に高齢者施設でのボランティア活動を通じて感じることは、高齢者の方々とのコミュニケーションの重要性です。施設を訪問して会話をする中で、高齢者の方々が日常的な交流や新しい刺激を求めていることに気づきました。話を聞いてもらうこと、自分の過去を語ることが彼らにとってどれほど価値があるかを実感しています。

ボランティアをしていて嫌な思いをしたことはありますか？

高齢者施設での活動中に、一部の高齢者の方々が私たちボランティアに対して否定的な態度を取られたことです。高齢者の方々は、時に私たちの支援を必要としないと感じたり、私たちの存在を煩わしいと思ったりすることもあったようです。自分の活動が本当に役立っているのか、疑問に思うこともありましたが、このような経験を通じて、人それぞれに異なるニーズや感情があることを理解できるようになりました。

ボランティアを続けている理由を教えて下さい。

地域社会への貢献と、それを通じて得られる深い充実感でしょうか。特に、高齢者や子どもたちとの交流では、彼らの笑顔や感謝の言葉を直接聞くことができ、それが私にとっての大きな報酬となります。また、ボランティア活動は私にとって、常に学びの場でもあります。様々な人々との出会いや、様々な経験を通じて、自分自身の人間性を磨き、コミュニケーションスキルを高めることができます。こうしたことが、私がボランティア活動を続ける理由です。

いかがでしたか？小林さん（＝生成AI）を通じて、「ボランティア」がどういうものか再認識できたのではないかと思います。少し優等生すぎるのと、若干話に具体性が欠けるかな、という印象はありますが。

ボランティア情報

ホームページにも情報満載！
http://www.boramimi.com

ボランティア初めの一歩　大切なマナー&ルール

- **新型コロナウィルスの状況等により、変更・中止となる場合もあります。必ず事前に各団体にご連絡ください。**
- 希望のボランティア先へ連絡するときは、まず名前を名乗って、用件（ボランティアに参加したい・詳しく聞きたい）を正確に伝えましょう。
- ボランティアへの参加当日、急用で参加できなくなったときは、必ず電話連絡を。また、約束の時間は守りましょう。

ベトナム旧正月体験イベントのボランティア募集

国際　生涯学習　名古屋市南区

名古屋市南区役所3階の講堂で、本物のベトナムのお正月が体験できるイベントを行います。当日の受付や正月遊び体験の手伝いをしてくれるボランティアを募集します。謝礼・交通費はありませんが、ベトナムの正月料理の食事付きです。南区、緑区の方歓迎です！

- **日　時**：2月4日（日）10:30～15:30（選挙等で会場が利用できない場合2月25日（日）になります）
  2月3日（土）に説明会があります。ご希望の方はご参加ください。
- **場　所**：南区役所3階講堂 名古屋市南区前浜通3-10
- **その他**：Eメールにて、お名前・Eメールアドレス・電話番号・ご住所（町名まで）・簡単な自己紹介やご希望などを書いて、お申込みください。【子ども連れでの参加】可能【定員】10名

問合せ
NPO法人名古屋ベトナムネット
担当：荒川
携帯：070-5642-2716
E-mail：758vietnam.net@gmail.com

盲ろう者について知ろう

障害者　愛知県刈谷市

視覚と聴覚の両方に障害のある人たち「盲ろう者」のことを知っていますか？盲ろう者は情報提供・コミュニケーション・移動に支援が必要です。盲ろう者の重複障害での困難や必要な支援などについて学びませんか。盲ろう者に関心のある方はどなたでも、ご参加ください。

- **日　時**：2月3日（土）・17日（土）・24日（土）、3月9日（土）
  全4回（1日のみの参加もOK）
  13:00～15:00（受付12時30分～）
- **場　所**：刈谷市中央生涯学習センター 刈谷市若松町2-104
- **その他**：電話、FAX、Eメールにてお申込みください。手話通訳・要約筆記の配慮を希望される方は早めにご連絡ください。【参加費等】無料【定員】各日30名・先着順

問合せ
あいち聴覚障害者センター　担当：近藤
TEL：052-228-6660（9:00～17:00）
FAX：052-221-8663（9:00～17:00）
E-mail：aichi.deaf.center@flute.ocn.ne.jp

岐阜県御嵩町での森林ボランティア活動

環境　岐阜県可児郡

岐阜県御嵩町にあるヒノキ林の枝打ち・間伐を、月に1回（第2土曜と翌日の日曜）に行います。また、木工や製紙原料としての出荷など、間伐材の利用にも取り組みます。御嵩町は、名古屋地区の水源となっている木曽川の上流にあります。私たちの「水源の森」の整備にぜひ力を貸してください。

- **日　時**：1月13日（土）・14日（日）、2月10日（土）・11日（日）10:00～16:00ごろ（いずれか1日だけの参加も歓迎です）
- **場　所**：御嵩町「中公民館（なかこうみんかん）」駐車場集合
  岐阜県可児郡御嵩町中2171-1
- **その他**：Eメールにてお申込みください。【参加費等】保険費用として100円【子ども連れでの参加】可能
  【定員】30名・先着順

問合せ
みたけ・500万人の木曽川水トラスト
担当：市村
TEL/FAX：052-735-5453（平日9:30～18:00）
E-mail：mitake500npo@yahoo.co.jp

初心者歓迎　つしま日本語教室ボランティア募集

国際　青少年　愛知県津島市

津島文化会館で、外国人に日本語を教えるボランティアです。津島市、あま市、愛西市、稲沢市の方の参加をお待ちしています。初めての方でもOKです。初日の集合時間は18:50です。遅れた場合は、別の日にしていただくことがあります。

- **日　時**：1月19日（金）・26日（金）、2月9日（金）・16日（金）・23日（金・祝）19:00～20:40
- **場　所**：津島文化会館2階 視聴覚室または会議室
  津島市藤浪町3-89-10
- **その他**：Eメールにて、お名前、ご住所、学校名または勤務先名、簡単な自己紹介、参加希望日、Eメールアドレスまたは電話番号、日本語教師の資格がある場合はその内容をお知らせください。

問合せ
つしまにほんご教室
担当：おざき
携帯：070-5642-2716
E-mail：tsushima.nihongo@gmail.com

日本語教室「にほんごひろば若林教室」

豊田市内にお住いのほとんど日本語が話せない外国人の方を対象とした日本語教室です。学習者の方と「休みの日にすること」、「旅の思い出」など決まったトピックについて「やさしい日本語」で会話をします。交流を楽しみながらお互いの文化や習慣、外国の方に伝わりやすいコミュニケーションの方法を学べます。

国際　文化　愛知県 豊田市

■日　時：2月11日（日）までの毎週日曜日13:00～14:30
■場　所：豊田市若林東町沖田124 若林交流館 大会議室
■その他：電話またはメールにて、氏名、緊急連絡先（携帯）、メールアドレスをお知らせください。15歳（高校生）以上可。若林教室以外でもボランティア募集中です。詳細はお問合せください。【参加費等】年間500円（TIAボランティア登録代として）

問合せ
豊田市国際交流協会（TIA）
担当：得永
TEL：0565-33-5931（月曜日を除く9:00～17:30）
E-mail：tia-system@hm.aitai.ne.jp

「新規無料塾@勝川最寄」ボランティア指導員募集

東海つばめ学習会としては、すでに多数の「無料塾」を開設していますが、2024年1月から春日井市に新たに開校いたします。小学3年から高校3年の子ども達が対象の教室で、子ども達の学習をサポートしてくれるボランティア先生を大募集します。指導年齢や教科についてはご希望も承ります。

青少年　生涯学習　愛知県 春日井市

■日　時：2024年1月5日（金）から毎週金曜日18:30～20:30
■場　所：春日井市如意申町8-8-2
高齢者施設「あいゆうの森」1階
■その他：Eメール、電話またはショートメールでご連絡ください。電話に出られないことも多々ありますが、着信があれば折り返しいたします。【資格、条件等】子どもが好きな方を希望

問合せ
NPO法人東海つばめ学習会春日井西教室
教室長：宇佐美
携帯：090-1417-7324
E-mail：tokai.tsubame@gmail.com

耳が聞こえない子どもと話そう

耳が聞こえない子どもたちの勉強を見たり、一緒に遊んでいただきます。手話ができなくても大丈夫です！「難聴児ってどんな子かな？」「手話ってどうやって使うんだろう？」そんな疑問のある方、ぜひご参加ください。年齢や経験など関係ありませんので、お気軽にお問い合わせください。

障害者　生涯学習　名古屋市 千種区

■日　時：月～金曜日14:00～17:30、土曜日10:30～17:30の間で参加可能です。ご希望の日程・時間を教えてください。
■場　所：（1）パレット 名古屋市千種区振甫町2-64-1
（2）パステル 名古屋市千種区若水3-10-1
■その他：Eメール、電話にて、漢字のフルネーム、ご希望の日程・時間・施設を教えてください。見学のみも可能です。パレットは小学生が中心、パステルは幼児が中心に通っています。

問合せ
NPO法人名古屋ろう国際センター
担当：笠江
TEL：052-778-8108 FAX：052-778-8117
E-mail：info@deaf-ic.org

子どもと遊ぶボランティア募集

名古屋市内の小学校や施設で子ども向けに工作やレクゲームを行っています。「子どもと遊ぶのが好きな大人の集まり」という感じでマッタリと活動しております。子どもと遊ぶのが好きな方はもちろん、学校の先生を目指している方には子どもとふれ合えるいい機会になると思います。ぜひ一度体験にお越しください。

青少年　名古屋市内

■日　時：基本月1回（第3土曜日）13:30～15:30（例外もあり）
■場　所：名古屋市北区金城小学校、西区浮野小学校トワイライトルーム及び生涯学習センターなど
■その他：わいわいボランティアホームページの「ボランティア募集」欄またはEメールにて、お問合せ・お申込みください。【交通手段】自動車可（駐車場あり）

問合せ
わいわいボランティア
担当：村山
E-mail：yy_volunteer2007@yahoo.co.jp

NPO法人・一般社団法人・財団法人
設立・会計・税務等の支援をします
お気軽にご相談ください
サカエ税理士法人　税理士・公認会計士　遠島敏行
名古屋市中村区黄金通2-54　TEL：052-482-6600
URL：http://www.sakaetax.com
http://www.seturitu-unei.com/
E-mail：info@seturitu-unei.com

地域に根差す 社会貢献企業へ
2021年2月 SDGs宣言

ニーズに応える印刷会社
デジタルコンテンツ・AR（拡張現実）等
オフセット印刷
商業印刷全般
セキュリティー印刷
金券、商品券、証明書 等
防災マニュアル・飲料水
気軽にお問い合わせください
菱源株式会社
https://hishigen.co.jp
〒490-1144 愛知県海部郡大治町西條松下75
TEL.052-444-2323 FAX.052-444-2636
【東京営業所】TEL.03-5577-5686
ISO14001：2015認証取得
プライバシーマーク 19001222
●菱源株式会社は「ボラみみ」を応援しています。

小中学生の居場所ボランティア募集

小・中学生の居場所づくりをサポートしてくれるボランティアを募集中です。子どもたちと一緒に日常生活を充実させる体験を大事にしています。お兄さん・お姉さん的な立場になって、安心できる居場所づくりをしましょう。子どもと一緒に公園を走り回れる方！ぜひお気軽にお問合せください。待っています！

青少年　名古屋市 中村区

■日　時：土曜日9:30～16:00、月曜日16:15～22:00
スケジュールはお問い合わせください。
■場　所：名古屋市中村区靖国町1-94
■その他：Eメールにて、必ず事前にお申込みください。【資格、条件等】大学生、大学院生、社会人　【定員】毎回1名・先着順（理由：子どもと支援者数のバランス、支援体制）

問合せ
NPO法人ささしまサポートセンター
こども支援担当：伊藤
E-mail：office@sasashima.info

小学生・初心者に将棋を教えるボランティア活動です

将棋教室の参加者に個別指導をします。小学生や初心者に将棋を教えることが好きな方なら、年齢・性別を問わず参加していただけます。指導員資格取得にご興味ある方は、ご相談下さい。

青少年　生涯学習　名古屋市 昭和区

■日　時：1月14日（日）・20日（土）、2月11日（日）・25日（日）
9:00～11:30
■場　所：名古屋市公会堂（鶴舞公園内）
名古屋市昭和区鶴舞1-1-3
■その他：Eメールにて、見学希望日、年齢、性別、志望動機、簡単な自己紹介等をご記入のうえお申込みください。【子ども連れでの参加】可能

問合せ
名古屋鶴舞インターナショナル支部
担当：柳瀬（やなせ）
TEL：052-735-0180（13:00～18:00）
E-mail：nagoyaint@gmail.com

らいふでボランティアしていただける方募集

知多地域で暮らす障がい児・者のサポート、また障がいのある方やそのご家族が地域で安心して生活するためのサポートをしています。放課後等デイサービスで、子どもたちと一緒に工作、料理、お出かけなどの活動や一緒に遊んだりコミュニケーションをして、子どもたちと楽しく関わっていただける方を募集しています。

障害者　愛知県 知多郡

■日　時：月～金曜日15:00～18:00、土・日曜日10:00～16:00
■場　所：知多郡東浦町緒川寿久茂129
■その他：初めての方でも大歓迎！お気軽に電話、Eメールでお問い合わせください。【最寄り駅】名鉄「巽ヶ丘」徒歩15分【資格、条件等】子どもが好きな方

問合せ
社会福祉法人愛光園 知多地域障害者生活支援センターらいふ　担当：佐々木・大嶋
TEL：0562-34-6293（10:00～19:00）
E-mail：life-neco@aikouen.jp

『ボラみみ』のライターを募集中です！

『ボラみみ』の記事は、編集会議で各号のテーマや企画内容を相談し、メンバーが分担して、取材や原稿作成をしています。文章を書くのが好き、いろんな人の話を聞いてみたい人にはぴったりの活動です。実際の取材の前に、取材練習がありますので、「取材」をしたことがない方もぜひチャレンジしてみてください。

団体支援　名古屋市 中区

■日　時：編集会議：原則、毎月第1水曜日19:00～21:00
取材・原稿執筆：年2～3回程度
■場　所：編集会議：名古屋市中区新栄町2-3　YWCAビル6階またはオンライン
取材：名古屋市内を中心に愛知県全域
■その他：まずはEメールまたはお電話でご連絡ください。その後、事務所またはオンラインで面談をさせていただきます。【子ども連れでの参加】可能【定員】2名

問合せ
NPO法人ボラみみより情報局
担当：佐原
TEL：052-228-7824（月～土13:00～18:00）
FAX：052-228-7834 E-mail：office@boramimi.com

「ボラみみ」の財源は、みなさんの支援です。

ボラみみ

毎号9千部発行の『ボラみみ』は、ボランティア情報を無料で掲載、無料で配付しています。発行にはたくさんのボランティアが力を注いでいますが、それでも毎回多額の資金がかかります。是非会員になって『ボラみみ』を支えてください。

■会員種類と特典　●が得られる特典です。

	賛助会員		正会員	
	個人・団体	法人	個人・団体	法人
年会費	3,000円	10,000円	10,000円	50,000円
ボラみみの活動がわかる年3回のニュースレター	●	●	●	●
市民活動の情報満載の『ボラみみ』が年6号	●	●	●	●
ボランティア情報の優先掲載			●	●
NPOや企業の広報掲載料の割引			●	●
ボラみみの事業活動・運営に参加ができる（総会の議決権）			●	●

■振込先　特定非営利活動法人ボラみみより情報局　郵便振替口座/00830-9-71034　三菱UFJ銀行柳橋支店（普）/1799329

ボラみみ INFORMATION

新規・継続会員登録の方々（順不同）

■法人正会員：

【継続】●株式会社イー・アール・エス様

【新規】●トヨタ自動車株式会社トヨタボランティアセンター様

■団体正会員：

【継続】●特定非営利活動法人名古屋ろう国際センター様

■個人正会員：

【継続】●宇都宮 亮二様　●金 源道様　●三木 絵里子様
●小倉 和雄様　●浅野 美子様　●大田 哲嗣様
●鷲見 敏雄様　●匿名1名

■法人賛助会員：

【継続】●大森授産所様

■賛助会員：

【継続】●三谷 洋一様　●小池 征司様
●西川 博勝様　●匿名1名

■寄付：●匿名28名

「ボラみみ」配布先

ー詳細はホームページにて掲載中！ー

●WEBより

http://www.boramimi.com/haihu/

●携帯より

QRコード

みんなの声

●特定非営利活動法人地球緑化センター様

今後も地域に根強いサイトとして当団体も掲載を続けていきたいと思っております。

●特定非営利活動法人名古屋おやこセンター様

ボラみみからの応募はわかりませんが、前年度より多くの方から連絡をいただきました。

●社会福祉法人エゼル福祉会様

久々のクリスマス会開催でしたが、4年前にボランティアをしてくださった方が、今回も応募してくださいました。この間連絡を取っていたわけではないのですが、ボラみみを見て応募してくださって、ありがたく嬉しかったです。

編集後記

ODA

私がボランティアを始めたのは、今から30年ほど前。対談を通して振り返ると、この30年で日本の社会が大きく変化したことを改めて感じました。ボランティアを取り巻く環境が大きく変わったことで、ボランティア自体、大きな影響を受けたように思います。そんな変化の荒波にさらされても、これからのボランティア活動に希望を感じました。今号のテーマは「シン・ボランティア」。次の時代の活動に期待が持てます。

次号予告

次号のテーマは「はぐくむ」。

2024年3月1日発行予定です。お楽しみに！

特定非営利活動法人
ボラみみより情報局

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F　TEL 052-228-7824　FAX 052-228-7834
E-mail office@boramimi.com　URL http://www.boramimi.com/　代表 織田元樹　印刷 菱源株式会社

センター主催講座・イベントのご案内

1/31［水］ 14:00～16:00 NPO法人設立のしかた編
（1月11日受付開始）

「NPO法人ってなに？」「どうやってNPO法人を設立するの？」など、NPO法人の設立前に準備するものや書類作成のポイントを学べる講座です。自分たちでNPO法人を設立しようと考えている方はぜひ！

■定員：30名　■参加費：500円　■講師：市民活動推進センター職員

■NPOアドバイザーによるNPOのための専門講座　［参加費：1,000円、定員：20名、要申込］

内　容	日　程	担当アドバイザー
基礎からはじめよう！NPO会計入門講座	2/2［金］13:30~15:30	足立　勝彦（税理士）

講座受講のお申込みは、窓口・電話・FAX・電子メールにて受付けます。電子メール・FAXでお申込みの際は、**講座名・氏名・電話番号・所属団体・参加動機・名古屋市内での活動の有無**をご記入ください。名古屋市内で活動しているまたは活動する意思のある個人・団体を対象とします。詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。

■NPOアドバイザーによる個別相談のご案内　［参加費：無料、要申込］

内　容	日　程	担当アドバイザー
会計・税務	1/12［金］10:00～, 11:30～	鳥居　翼（税理士）
設立・運営	1/19［金］16:00～	織田　元樹（NPO法人ボラみみより情報局）
設立・運営	1/26［金］16:00～	織田　元樹（NPO法人ボラみみより情報局）
会計・税務	2/ 2［金］16:00～	足立　勝彦（税理士）
会計・税務	2/ 9［金］10:00～, 11:30～, 14:00～, 15:30～	橋本　俊也（税理士）
会計・税務	2/14［水］10:00～, 11:30～, 14:00～, 15:30～	黒田　朱里（公認会計士・税理士）
設立・運営	2/16［金］16:00～	織田　元樹（NPO法人ボラみみより情報局）
設立・運営	2/21［水］16:00～	織田　元樹（NPO法人ボラみみより情報局）

【問合せ・申込先】
名古屋市市民活動推進センター
電話：052-228-8039　FAX：052-228-8073
電子メール：npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp　URL：https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/

※専門講座、個別相談は、名古屋市内で活動する（または活動予定のある）NPO・市民活動団体が対象です。

スタッフのつぶやき
スタッフ：早川

あけましておめでとうございます。2024年は、甲辰の年。新しいことを始めて成功する、今まで準備してきたことが形になる、縁起の良い年だそうです。辰は十二支の中で、唯一、空想の生き物というのも魅惑的ですよね。以前よりも時間に余裕ができたので、縁起を担ぎ、やりたいと思っていて、できていないことにたくさん挑戦する1年にします！

イラスト協力：加藤舞美

特集②

ボランティア入門講座のゲストトークを紹介します！

ゲストの田中智子さん

市民活動推進センターでは、ボランティアの基礎や活動の探し方の講義をはじめ、実際に活動している方の話を聞くことができる、「ボランティア入門講座～ボランティアへのはじめの一歩～」を定期的に開催しています。10月25日（水）に開催した講座の、らくらく日本語教室代表、田中智子さんのゲストトークをまとめました。

■らくらく日本語教室のはじまりと現在の活動

らくらく日本語教室は、2014年4月に外国人の生活を支援するNPO法人の一事業としてスタートしました（現在は、NPO法人から独立し、任意団体）。中国出身のお母さんがいて、地域の小学校から相談を受け、「なんとかしなくっちゃ」というのがはじまりです。中国やブラジル、ベトナム、フィリピンなどがルーツの子どもたちと日本の子どもたちが、一緒に楽しく、遊びも織り交ぜながら勉強していますが、勉強の場というよりは、子どもも大人も、みんながゆるくつながるサードプレイス、みんなの居場所として活動しています。

■らくらく日本語教室に参加した理由

らくらく日本語教室に参加した理由は、中国語の通訳や翻訳のボランティアをしていたので、語学力や日本語教師の資格を生かしたいと思ったこと。以前、日本語学校で非常勤講師をしていたとき、生活の中で生きた言葉でコミュニケーションすることの重要性を感じていたり、子どもの頃、転校が多く、文化的差異がつらかった経験があることも影響しています。そして何より、「楽しそう！」「のびのびやれそう！」だと感じ、最初は、ボランティアの一人として参加しました。

■ボランティアをして得たものとこれからボランティアをはじめる方へのアドバイス

らくらく日本語教室の活動を通して、得た主なものは以下の3つです。

①多様な子どもたち・大人たちとの出会いによって、世代・国を超えた仲間ができ、ともに成長するよろこびを感じている
②社会や地域を意識するようになり、多文化共生やまちづくりなどを考えるきっかけになった
③地域日本語コーディネーターとしての新たなキャリア・役割ができた。いろいろな可能性が広がる

これからボランティアをはじめられるなら、まずは気になる団体に連絡を取り、気軽に見学してみてください。実際に行ってみると、団体の様子や自分に合うかどうかわかります。

らくらく日本語教室

団地で活動している外国ルーツの子どもたちのためのボランティア教室。毎週木曜日の夕方、初期の日本語学習および宿題などのサポート、進学相談や受験サポートなどを行っている。日本語教師資格、中国語通訳案内士などの資格を持つスタッフに加え、社会人、学生、主婦などのボランティアが勉強相手・遊び相手・話し相手となって子どもに寄り添い、成長を分かち合いながら楽しく活動中。「ゆるくつながる」をモットーに地域団体のイベントなどにも協力している。

9・10月の設立認証NPO法人

名　称	所在区	主な活動分野
奏	中川区	学術・文化・芸術・スポーツ
エデン	中区	保健・医療・福祉
ともの会	中川区	保健・医療・福祉
食品サークル	瑞穂区	消費者保護

8月末現在の所管法人数

認証法人数：863法人　認定法人数：29法人　特例認定法人数：3法人

特集①

ポストコロナを見据えた伴走支援の事例を紹介します!

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの市民活動団体が活動や事業の一部停止や資金収入の減少など大きな影響を受けました。市民活動推進センターでは、コロナ禍で困っている団体を募集し、ポストコロナにおいても事業の継続・発展が見込めるよう、各団体の抱える課題に応じて、その分野の専門家と一緒に課題を整理・分析し、解決に向けて伴走支援する事業を行ってきました。令和4年度に伴走支援を行った2つの事例を紹介します。

●事例①:資料やデータをクラウドに移行したい

【課　題】本部と複数の事業所があり、資料やデータはそれぞれの事業所がUSBメモリに保管していました。クラウド化も試みたことはあるそうですができませんでした。セキュリティ面にも大きな課題がありました。

【支　援】ITの専門家が入り、クラウド化の支援をしました。

(1)ITの活用状況やセキュリティ、クラウドについての理解度や業務の流れなど、現状を把握する
(2)用途に合わせたクラウドサービスと、それに係るソフトウェアを選定する
(3)クラウドのアカウント数やアクセス権限の付与をどうするのか、外部からアクセスする場合の認証方法など、団体に合わせたセキュリティを検討・導入する
(4)各種サービスを契約・購入及び、クラウドやパソコンなどを設定し、利用方法を説明する

【ポイント】クラウド化を導入していない団体は、その形で業務が最適化されていて、その流れを互換しつつ、新たなサービスを導入していくのは、何もない状態から導入するより難しいことが、支援を通してわかってきました。良いと思われる技術導入でも、組織の文化や価値観を尊重しつつ、現実的な範囲で既存の業務を変革させるというバランスが必要になります。

●支援を受けた団体の感想

・クラウド化導入の過程で、法人内の部署ごとに、職権によってデータにアクセスする権限を制限するので、それを整理するのが大変でした。
・現在は、場所に縛られることなく働けるようになったので、大変助かっています。職員のクラウド化に対する理解促進と、個人情報へのアクセス権に関する教育が、現在の課題です。

●事例②:寄附金を集めたい

【課　題】本部の建設を計画しており、資金の一部を寄附で賄う予定でいましたが、集め方に困っていました。また、今まで理事長が1人で担ってきた法人運営業務を、職員に引き継ぐ方法を模索していました。

【支　援】ファンドレイザーが入り、クラウドファンディングのサポートをしました。

(1)本部建設のために寄附集めが必要なストーリーをみんなで作る
(2)過去の支援者・企業をリストアップする。クラウドファンディング支援のDMを作成し、配布する
(3)クラウドファンディングのスケジュールや役割を考える。なるべく作業を細分化し、スタッフ主体で進めてもらい、役割を任せることで、自分ごととして関心を持ってもらう
(4)今後のファンドレイジングにつなげるため、情報共有用のリストを作り、リストの運用方法を提案する
(5)全体を振り返る

【ポイント】クラウドファンディングの実施を通して、団体のビジョンとミッションを再確認し、自分たちの強み・弱みを整理したことや、多くの関係者を巻き込み、「人ごと」から「自分ごと」にする人を増やしたことが、クラウドファンディングの目標額を達成することにつながりました。職員みんなで準備し、目標を達成することで、団体としての経験や知識を得ることができ、今後にもつながります。

●支援を受けた団体の感想

・第3者の視点からアドバイスをもらったことで、理事長がすべてを担っている組織体制を見直し、理事長の仕事を職員に引き継いでいくきっかけになったことが、すごいと思いました。
・クラウドファンディングは職員でチームを組織して行い、自分たちですることにより、自分ごととしての意識を持ち、それまで気が付かなかった職員の新たな力を感じることができました。

なごや市民活動通信

2024
1・2月号
No.109
無 料

発行：名古屋市市民活動推進センター

INDEX

特集①ポストコロナを見据えた伴走支援の事例を紹介します！
特集②ボランティア入門講座のゲストトークを紹介します！

センターニュース

第37期　災害ボランティアコーディネーター養成講座　実施報告

災害時に全国から集まるボランティアの受付・整理を行い、被災者のニーズを把握して、ボランティアと結びつける役割を担う「災害ボランティアコーディネーター」を養成する講座が、9月24日(日)、30日(土)、10月7日(土)の3日間、開催されました。

名古屋大学名誉教授、福和伸夫氏による講義、災害ボランティアセンターの受付模擬演習、東日本大震災の被災者の方のお話、令和4年8月の大雨で被災した石川県小松市の方と、実際に現地で支援活動を行った方のお話など、盛りだくさんの内容でした。

最終日には、市内で実際に活動している、2つの災害ボランティア団体から、訓練や防災講座、啓発活動など、日ごろの活動についての案内のほか、「会社のつながりなどでは得難い、利害関係のない志を共にする仲間ができることが醍醐味」などとお話しがありました。

57名の方に受講していただき、名古屋の災害ボランティアのネットワークがさらに広がりました。

昨年度受講者の声（アンケートより）

- 講義、グループワークとても内容が濃く勉強になりました。グループワークを通して、座学では気づかない点に目が向けられてよかった。
- 災害現場で見た、感じた生の声を聴くことが出来てとても勉強になった。
- 災害が来た時のことばっかり考えていましたが、災害が来る前にもっと多くの人に災害について知らせることが大事なんだなと思った。

第38期 災害ボランティアコーディネーター養成講座

- **日　　程**：2月3日(土)、2月10日(土)、2月11日(日・祝)(全3日間)
- **定　　員**：50名(応募者多数の場合は抽選になります)　**参 加 費**：無料
- **対　　象**：名古屋市内在住、在勤または在学の中学生以上の方で3日間を通して受講可能な方
- **会　　場**：真宗大谷派名古屋別院(東別院)(中区橘2-8-55)(2月3日)
  名古屋市市民活動推進センター(2月10日、11日)
- **募集締切**：1月12日(金)必着
- **応募方法**：申込フォームにてお申込みいただくか、往復はがき又は電子メールに、①住所 ②氏名 ③電話番号 ④学校名または勤務先(市外在住の方のみ) ⑤年齢 ⑥メールアドレスを記入し、お申し込みください
  住所：中区栄三丁目18-1 ナディアパークデザインセンタービル6階
  名古屋市市民活動推進センター 宛
  電子メール：npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp

第38期災害ボランティアコーディネーター養成講座申込フォーム
https://logoform.jp/form/mX9C/421056

なごや災害ボランティアコーディネーター養成講座についてはこちら
https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/project/saigaivc_youseikouza/

■発 行 日：2024年1月1日
■発行部数：9000部

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパークデザインセンタービル6階　TEL 052-228-8039　FAX 052-228-8073
E-mail npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp　URL https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/

印刷：菱源株式会社 ©名古屋市市民活動推進センター 2024 禁・無断転載